



東部ネット

海老名Cをしゅん工

飲料水物流合理化で

東部ネットワーク(本長)は二十二日、関東工社・横浜市、荻原一義社(リテ)における飲料水物流

の基幹拠点として「海老名物流センター」をしゅん工した。一月から本格稼働させる。

22日しゅん工の「海老名物流センター」。拠点集約のほか、圏央道開通も見据えた

新センターの所在地は神奈川県海老名市下今泉二ノ三ノ一。国道二四六号に近接。敷地面積約三万五千平方メートル。鉄骨および鉄骨鉄筋コンクリート造り二階建て、延べ床面積約三万六千三百平方メートル。

圏央道開通も見据えた立地

収容能力は飲料水二万七千パレット(約百五十万ケース)。トラックベース二十一基。大小のエレベーター各二基と垂

直搬送機六基を備えた。同県座間市にあった拠点を移転、拡充。周囲に分散した拠点の集約と横持ち輸送の解消で、センター運営と配送の合理化を図る。さらに、圏央道開通による輸送網の拡大も見据える。

二十二日のしゅん工式であいさつした荻原社長は「新センターの目的は拠点集約だけではない。将来、圏央道が全線開通すれば、海老名の地は物流の大動脈になる。東名道、中央道、関越道、東北道、常磐道とつながること、主要顧客の関東圏の物流の一層の合理化に役立てるものと考えている」と話した。

(矢田 健一郎)